

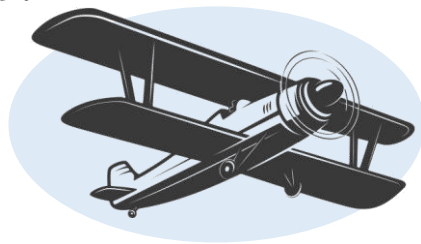
舞い上がれ！ 直方にあった飛行場

アメリカのライト兄弟によって世界初の飛行機が飛行したのは、1890（明治 23）年でした。世界中の飛行家はさらに改良を重ね、1927（昭和 2）年リンドバーグによって世界初の大西洋横断飛行がなしとげられるなど、飛行機熱は世界中で高まってきました。直方も例外ではなく、大正 5 年 8 月 14 日、民間航空のパイオニアで飛行家として有名な伊藤音次郎が操縦する飛行機「恵美号」が、直方中島公園東側の彦山川洪水敷より飛び立ち、大成功を収めました。

これを機会に直方にも飛行場を作ろうという声が高まり、大正 13 年 4 月に認可を受け、同年 9 月、直方三中の東側の遠賀川洪水敷に直方飛行場の開場式が行われました。飛行士は旧制鞍手中学校 5 年生の志鶴忠夫。当日は大刀洗飛行場から 2 機が応援に飛来し、会場は見物人で溢れました。

志鶴忠夫さんは後に、昭和 9 年久住山から飛び立ち、グライダー滞空時間 1 時間 26 分 10 秒の日本記録を作り、さらに昭和 11 年 1 月、日本帆走飛行連盟の教官として、大阪生駒山で 9 時間 23 分という記録を作るなど、航空の分野で活躍しました。大正 14 年 1 月には、直方町有志により航空思想の宣伝と技術員の要請を目的に、直方飛行協会が発会しました。

直方にも大空に夢を描いた人たちがいたということ、それを支えた当時の直方の勢いが感じられます。



参考図書

「続直方歴史ものがたり」N219 /

「ふるさとの思い出写真集明治大正昭和直方」N748 /

「創建三百年直方町記念誌」NL219 /

筑豊の民話 -植木八兵衛-

むかし、現在の直方市植木の里にいた、とても運のいい八兵衛という男の話が伝わっている。

八兵衛が草刈りに行く途中、武士が道に倒れていた。その武士の鎧や刀を取って武士になりました八兵衛は旅に出て、ある家に宿をとった。するとその家の主人が、「私の代わりに隣村の武士と試合をしてくださるか」と頼んできた。八兵衛はふるえがとまらなかったが、ふと床の間にある弓を引いてみたところが、矢は障子を突き破って飛んで行ってしまった。あくる朝、家に入ろうとしていた盗賊が、その矢に当たって死んでいたため、村中大騒ぎになった。

隣村の武士との試合の日、馬に乗ったことのない八兵衛はすぐに落馬したが、落ちた所に雉の巣があって、雉をつかんでさし上げた。こんな運のいい男にはかなわないと、隣村の武士は兜を脱いだそうだ。

やがて八兵衛は直方藩に召し抱えられたが、ある時、殿様から、雲取山の化け物を退治するように命じられた。八兵衛は袋いっぱいのはったい粉を持って出かけて行き、化け物を見てあまりの怖さに気絶してしまった。化け物のはったい粉の香りにつられて食べているうちに、粉が喉につかえて苦しみました。やがて気が付いた八兵衛は、弱った化け物を退治し、殿様にたいそう褒められたということだ。

【基本情報】 ◇有形文化財/建築物 《所在地》直方市直方 692-4 《指定年》1988年3月

明治初期から始まった石炭鉱業に強い関心を持っていた福岡県は、石炭鉱業の推進を図り、明治18年、県内各郡別に石炭鉱業組合を結成させます。旧筑前国から遠賀・鞍手・嘉麻・穂波が、旧豊前国から田川が参加し、五郡石炭業組合が結成され、明治26年に筑豊石炭鉱業組合へと改称しました。その2年後、筑豊石炭鉱業組合は石炭流通の中心地であった直方に会議所をつくるのです。

旧筑豊石炭鉱業組合直方会議所(石炭記念館本館)では、筑豊御三家と称される貝島、麻生、安川をはじめとする多くの炭鉱経営者たちや、三井、三菱、住友といった中央の大手資本たちが集まり、採炭制限や石炭カルテルといった筑豊炭鉱業界の共同利益の保護と利害の調整、労働問題、保安対策(救護訓練所の設置)、技術者の養成を行う鉱山学校の設立などについて議論されました。日本の石炭産業をリードした、筑豊石炭鉱業組合の意思決定を行った唯一現存する重要な遺構となっています。

炭鉱閉山後、脱石炭・財政再建推進などに伴い多くの炭鉱関連建造物が姿を消していきました。炭鉱跡地は工業団地になど、炭鉱景観が様変わりしていく一方、筑豊が炭鉱とともに迎った歴史を顕彰し、関連する資料や遺産を保存するため、昭和46年、日本で2番目の石炭記念館として直方市石炭記念館が開館しました。



今月号からは、直方市の貴重な文化財を紹介していきます。おたのしみに！

参考：「直方市バーチャルミュージアム」 <http://nogata-virtualmuseum.jp/chronology.php>
「旧筑豊石炭鉱業組合直方会議所及び救護練習所模擬坑道整備基本計画」 N567ノ

はじめの一步 ～郷土資料の紹介～

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。
郷土の歴史や文化に興味をもっといただくきっかけになればと思っています。

『石炭と炭鉱 100年の歴史を語る』

直方市石炭記念館 // 著 N567ノ

直方市石炭記念館の展示館の案内や、主要展示資料の資料目録をはじめ、筑豊炭田の基本的な情報や、九州の石炭年表などが記されており、直方の歴史とともにあった炭鉱について知りたい方へはじめての1歩としておすすめの1冊です。

昨年7月に開館50周年を迎えた直方市石炭記念館では、実際に炭鉱で使われていた機械や器具、炭鉱の模型、石炭の塊なども目にすることができます。この本を読んだ後に、ぜひ足を運び直接お話を聞いてみてはいかがでしょうか。



直方市立図書館 直方市山部 301-11 コミュニティのおがた内
TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902